

# 道徳だより

令和4年 11月  
七塚小学校  
校長 宗廣 進一  
5年生担当

今回は、5年生の授業の様子についてお伝えします。

主題名：本当の親切って 教材名：「くずれ落ちたダンボール」

《ねらい》本当の親切とはどんなことかについて考え、進んで人のために行動しようとする心を育てる。

《あらすじ》

デパートにおでかけに来ていた「わたし」と友子は、小さい男の子が高く積まれた段ボールをくずしてしまう場面に遭遇します。男の子と一緒に来ていたおばあちゃんは、申し訳ないとそのダンボールを直そうとしますが、男の子は直さずにおもちゃ売り場に行きたいと騒いでしまいます。そこで「わたし」と友子は、「私たちが直しますよ。」といい、男の子の代わりにダンボールを直しますが、デパートの店員さんに、「わたし」と友子とそのダンボールを崩したと誤解され叱られてしまいます。嫌な気持ちになった「わたし」と友子でしたが、最後には誤解も解けて、おばあちゃんとその店員さんから感謝されるという話です。

教師の問いかけ



店員さんに勘違いされたとき、「わたし」はどんな気持ちになったかな。

嫌だけど、おばあちゃんや店員さんにお礼を言ってもらったから、大丈夫だと思うな。

児童の反応



学校でも、店員のように決めつけて何か言うんじゃないかと、理由を聞くようにしたいな。



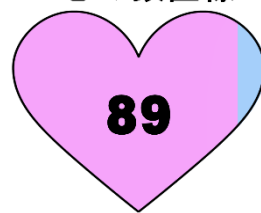
今回の授業では、「心の数直線」を使って話し合いました。



心の数直線



心の数直線



児童のふり返りより

- ・困っている人を助けると、周りから勘違いされることもあると思うけれど、本当に困っている人を助けるのが本当の親切だと思うので、これからも学校や家で親切にしていきたいです。

児童は「心の数直線」を動かしながら、だれかに親切にすることは必ずしもいい気持ちで終わることができないこともあると話し合っていました。それでも誰かのことを考えて行動していきたいという思いをもつことや、友達の親切な場面に遭遇したとき、悪いことをしていたんじゃないかと決めつけたりするのではなく、何をしていたか理由を聞くことも大切だと、学校生活をふり返る姿も見られました。